

平成 9 年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 切り花用りんどう「ポラ - ノブル - 」			
<p>[要約] 切り花用品種「ポラ - ノブル - 」はアレンジメントやホ - ムユ - ス等の新たな用途が期待できるスプレ - タイプの品種であり、ササリンドウ系とエゾリンドウ系の交配によって作出された栄養繁殖性の品種である。開花期は育成地の北上付近で9月下旬～10月上旬であり、茎全体に側枝が発生する。花色は青紫色で、高温時には花冠先端が外反転する特性を有している。</p>						
キ - ワ - ド	品 種	り ん ど う	ポ ラ - ノ ブ ル -	青 系	園芸畑作部 花き研究室	

1. 背景とねらい

今後、さらに、りんどうの生産拡大を図るためには消費拡大が必要であり、仏花のイメージを変える品種開発が望まれている。そのためには、従来品種の1本立ちの草姿と異なり、フラワーアレンジメントやホ - ムユ - ス等に向き、新たな用途が期待できる品種が必要である。また、「ジョバンニ」「アルビレオ」の開花期の間には開きがあるため中間に咲く品種が求められていた。「ポラ - ノブル - 」はそのねらいにかなう品種で、現在品種登録出願中であり、種苗の供給も可能となってきたため、品種の特性を紹介する。

2. 技術の内容

1) 来歴

旧岩手園試本場において、花色が鮮明で、従来の草姿と異なる多側枝性（スプレ - 咲き）品種の開発を目的として、昭和58年にササリンドウ系選抜系統「GSB」を母親、エゾリンドウ系選抜系統「矢巾系」を父親として交配・育成した。なお、平成8年に品種登録の申請を行っている。

2) 特性の概要（表1、2）

- (1) 開花期：育成地（北上市）付近で9月下旬～10月上旬である。既存品種「ジョバンニ」と「アルビレオ」のほぼ、中間にあたる。
- (2) 草丈：100～110cmで揃いはよい。
- (3) 茎：茎の太さは中程度であるが強い。茎色は、緑色の地色に茶褐色の着色がみられる。茎全体に側枝が発生する（1茎当り25本程度）が、中位に長いものがつく。3年株での立茎数は15～20本である。
- (4) 花：花色は青紫色であるが、花冠外面に灰紫色の縞模様がある。斑点は花冠内外面ともに発生しない。高温時に花弁の先端が外反転する。
- (5) 葉：中位部で長さ5cm程度、幅3cm程度で、大きさは中程度である。色は濃く、光沢がある。
- (6) その他：栄養繁殖性品種である。増殖は組織培養による。

3. 普及上の留意事項

- (1) 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。
- (2) 側枝の発生が多いので、栽植距離は慣行よりやや広めの20cm程度とする。
- (3) 側枝が脱落しやすいので、ネット上げ・収穫等取扱いに注意する。
- (4) 葉枯病に抵抗性を有する。他の病害については従来品種並である。

4. 技術の適応地帯

県下全域（露地普通栽培）

5. 当該事項に係る試験研究課題

りんどうの品種育成

6. 参考文献・資料

平成8年度新品種紹介りんどう「ポラ - ノブル - 」

7. 試験成績の概要

表1 品種特性 (4年株調査、平成7年)

品 種	開花期 ¹⁾ (月・半旬)	開花順序	花冠の色 ²⁾		花冠先端の転回	花冠外面の縞模様	
			内面上部	外 面		有無	色 ³⁾
ポラーノブルー	9・5	下から	濃紫青 (7607)	鮮青紫 (8005)	外反転	有	灰 紫 (8314)
ジヨハンニ	9・2	下から	鮮青紫 (8005)	鮮青紫 (8005)	やや外反転	有	濃 紫 (8608)
アルビレオ	10・2	全体	鮮青紫 (8005)	暗青紫 (8007)	外反転	有	暗青紫 (8007)

花冠内面上部の斑点	花数の多い位置	草 丈 (cm)	茎の太さ ⁴⁾	茎の強さ	茎の色 ⁵⁾	節間長 ⁶⁾
無	下部	113	中	強	中	中
無	上部	110	太	強	緑	中
少	下部	110	中	強	中	長

注1)開花期：全体の50%程度開花した時期

2)花冠の色：日本園芸植物標準色票による

3)花冠外面縞模様の色：2)に準じる

4)茎の太さ：草丈の1/2の位置、太～中～細の3段階で評価

5)茎の色：上部節間の色、緑～中～黒の3段階で評価

6)節間長：上部節間の長さ、短～中～長の3段階で評価

表2 ‘ポラーノブルー’品種特性 (2年株調査、平成9年)

開花期 (月・半旬)	開花順序	花冠先端の転回	花冠内面上部の斑点	花数の多い位置	草 丈 (cm)	茎の太さ	茎の強さ	茎の色	節間長
9・5	下から	外反転	無	下部	66	中	強	中	中